
ホットニュース(平成13年度／第37号)

●今月の業界ホットニュース／～「都市計画家」三題～

- 1)3月の千葉県知事選で43万票を集めながら堂本氏に破れた若井氏が、マスコミでは「都市計画家」「都市プランナー」「都市計画コンサルタント」等の名称で紹介されたため、「都市計画家」とは何ですか？具体的には何を食べているのですか？等と聞かれることが多くなった。お陰で世間的には殆ど知られていなかった「都市計画家」が、人口に膾炙するようになったことは喜ばしいことである。
- 2)日本で唯一この名称を冠する「日本都市計画家協会」は、これまで任意団体であったが、NPO法人化に向けての手続きを始めることになった。都市・地域づくりに関わる各種の事業や活動を標榜して、会の設立以来7年を経過したが、会員相互の共益的活動が主たるもので、マンネリ化しつつあることを省み、対外的・公益的活動を拡充・多様化することを目指しているという。この種の活動を通じて「都市計画家」の存在感を示すことになれば好ましいことである。
- 3)また、同協会では、「市町村と都市計画専門家のより良い連携のあり方に関する検討特別委員会」を設置して、地方分権化等における都市計画関連業務のあり方の検討を進めている。その第一弾として「都市計画家の活用に関する提言」を国土交通省に提出し好感を得たそうである。種々の場で「都市計画家」が認知されることを期待している。

(代表取締役 堀田紘之)

●交通バリアフリー法による市町村の基本構想作成にあたってのジレンマ

交通バリアフリー法が施行され、市町村は基本構想を作成することができるようになった。構想を作成すると、鉄道事業者や道路管理者などの特定事業者は事業計画を作成し、2010年までに一定の成果を出さねばならない。特定事業者は戦々競々として市町村の動向を見つめていることだろう。

ところで法による重点整備地区の指定では、地区内の主要経路については政省令における交通施設のバリアフリー基準を満たす必要がある。例えば駅と最寄りの市役所までの主要経路は、歩道であれば全線3m以上でなければならない。一部区間でも3m未満ではだめなのである。重点整備地区には指定できない。全くできないことはないが、沿道建物をセットバックするか車道を狭めれば良いのだが、そういうことが短い期間でできるかという別の問題が浮上する。また従来、横断歩道がなく歩道橋で国道を横断していた場合は、歩道橋のかわりに高額な立体横断施設を設置することとなる。

そうなると、1自治体で構想はいくつも作成しても良いので、一体的にバリアフリー化できそうなところから重点整備地区に指定するかという雰囲気になるが、市民(議会)の理解が得られるかという壁にぶちあたる。一体どうすれば良いのかというジレンマに陥っている自治体が多いようだ。

(第五計画室 高尾 利文)

●青年海外協力隊・派遣前訓練レポートvol.3

～始まりの終わり、スタート地点の手前～

3月23日、無事に訓練の全過程を修了し、晴れて正式な隊員として認められました！ 中間テスト以降、これまでもレポートやテスト、語学発表会の準備等、相変わらず忙しい毎日でしたが、これで訓練生活も終わりです。訓練期間中は次々と用意されている行事と、語学とレポートのおかげで目まぐるしい毎日でしたが、様々な人との出会いのおかげで充実した日々を送ることができました。

一方で、健康上の理由からやむなく、あるいは様々な事情から訓練途中で退所した人、訓練の全過程を修了していながらやはり健康上の理由で派遣時期を遅らせなければならない人等もあり、必ずしも訓練を受けた全員が一緒に、という訳にはいかず寂しい限りです。

が、とにかく、協力隊員としての前哨戦、派遣前訓練は終わり、出国に向けての準備期間を経て、いよいよ4月1日にはモロッコに向けて出発です。とはいえ、あまり準備の時間はなく、さらに実感もないのですが、この1週間のスケジュールをこなした先にはモロッコが待っているのだと思うと、漠然としていながらも楽しみでもあります。

緊急レポート ～ボンジュール、モロッコ！～

3月24日に訓練所を退所した後も、荷物をまとめる一方で自分の留守宅住所のある出身県・市への表敬訪問、壮行会など大忙しの日々が続きました。

そして、4月1日、ついに日本を離れる時がやってきました。見送りに来てくれた人々と別れ、出国ゲートをくぐった後も、なんだか実感が湧きませんでした。飛行機が離陸した途端に、これから2年間日本の土を踏むことがないのだと思うとやはり寂しくなりました。それでも、同期のモロッコ隊員9人と一緒に、まずはパリへ12時間のフライトです。

パリに1泊した翌4月2日、午前中にパリを発ち、3時間のフライトの後——モロッコ時間で11時半（日本との時差：9時間）、ついにモロッコ入りを果たしました！ 機中でもやっぱり現実味のなかったモロッコですが、徐々に高度が下がり景色がよく見えてくるにつれ、これがモロッコだ！という実感がひしひしと湧いてきます。

モロッコに上陸し、ホテル暮らしを始めてもまだまだ旅行気分が抜けず、これから2年間ここに住むということが信じられないくらいですが、今まで写真でしか見たことのなかったモロッコが、実物となって目の前にあります。これからどんなことが起こるのか、乞うご期待！

——モロッコ・プチ情報 ～その3・首都ラバト市編～ ——

位置：太平洋岸、ジブラルタル海峡から海岸沿いに約250km

人口：約150万人、

概要：人口規模では商業都市カサブランカ、マラケシュに次いで3番目。

近代的なビルが立ち並ぶ一方、メディナと呼ばれる旧市街では昔ながらのモロッコの町の姿が見られる、様々な時代が混在した街である。

(第三計画室 酒井 夕子)

アルメックホットニュース(平成13年4月15日発行)

////////////////////////////////////